

# 教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県教科用図書採択地区合同調査委員会

校種	教科	教科用図書目録に搭載された教科書総数	本報告書の総ページ数
中学校	国語	5	4

## 調査研究の観点及び各教科書の特徴

観点 発行者	基礎・基本の定着	主体的に学習に取り組む工夫	内容の構成・配列・分量	内容の表現・表記	言語活動の充実
2 東書	<p>1 目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の扉に単元の目標を単元名として示している。</li> </ul> <p>2 新出漢字の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脚注に行数、音訓、用例を示している。</li> <li>巻末に「新出漢字一覧」として、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。</li> <li>巻末に「新出音訓一覧」として、ページ数、新出音訓、用例を示している。</li> </ul> <p>3 言語・文法の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語は「日本語探検」として、文法は「文法の窓」として単元の中で1～2ページ程度でまとめている。</li> <li>巻末に、詳しい文法解説を示している。</li> </ul>	<p>1 興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「案内や報告の文章を書こう」では、保護者宛ての合唱祭の案内や合唱祭の結果を学年便りに掲載する記事を書く活動を取り上げている。</li> <li>「話し合いで問題を解決しよう」では、論点を整理し議論の順序をチャートで整理して討論する活動を取り上げている。</li> </ul> <p>2 学習過程・具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け、上段に学習の流れ、下段に具体例などを提示している。</li> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の前に「学びの扉」を配置し、直前の教材で学習したこととの関連を示している。</li> </ul>	<p>1 構成、配列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文、「基礎編」「資料編」の3部構成である。</li> <li>年間7単元。各単元は、各領域を関連させたものと『言葉の特徴やきまりに関する事項』『漢字に関する事項』で構成している。</li> <li>古典教材は、全学年、第5単元に配列している。</li> </ul> <p>2 分量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」の3年間合計ページ数が5発行者中で最も多い。</li> </ul> <p>3 発展的な学習の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> </ul>	<p>1 巻末資料の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎編」「資料編」として全学年に示している。</li> <li>「学びを支える言葉の力」「学ばせる言葉の力」「創造的な言葉の力」の3項目6種類に分類し、学年に応じて系統的に示している。</li> <li>文法に関しては、各解説の後に演習問題を掲載している。</li> </ul> <p>2 本文と図表等との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材19ページ掲載されている。図表等の種類は分布図などもあり5種類と多い。(数12)</li> </ul>	<p>1 読書単元の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元「読書への招待」(3回)を設定し3作品を掲載している。資料編に2作品を掲載するとともに2種類の読書活動を紹介している。</li> </ul> <p>2 書籍紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元末の「読書案内」</li> <li>資料編の「本と出会おう」</li> <li>学習の手引き中や脚注の「読書案内」。</li> <li>書籍紹介数 305冊</li> </ul> <p>3 「書くこと」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2学年は6回、3学年は4回設定し、詩歌の創作やレポート、批評文、手紙、ミニ雑誌の編集などがある。</li> </ul> <p>4 言語活動充実の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料編に「話すこと・書くこと題材例」や「発想・整理の方法」の解説がある。</li> </ul>
11 学図	<p>1 目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の扉に単元名と単元の目標を示している。</li> </ul> <p>2 新出漢字の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脚注に行数と本文中の読</li> </ul>	<p>1 興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「隠れた世界を知る」では、運動会や文化祭などの学校行事で、友達がどのような仕事をしていたかを</li> </ul>	<p>1 構成、配列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文、「言語の学習」「日本文学の流れ」「口語・文語活用対照表」の4部構成である。</li> </ul>	<p>1 巻末資料の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「言語の学習」「日本文学の流れ」「口語文語活用対照表」として全学年に示している。</li> </ul>	<p>1 読書単元の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元「読書1」「読書2」を設定し、掲載作品に係る評論も含め、3～4作品を掲載している。</li> </ul>

	<p>みを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材末にページ数、音訓、用例を示している。</li> </ul> <p>3 言語・文法の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語は「言葉と生活・言葉と文化」として3～5ページで各学年1回示し、文法は「文法の学習」として単元末に1ページにまとめている。</li> <li>巻末に、詳しい文法解説と「〇年生の語句・語彙の学習」を示している。</li> </ul>	<p>取材し、記事に書く活動を取り上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「多様な意見の交差」では、立場を決めて主張をまとめ、パネルディスカッションを行う活動を取り上げている。</li> </ul> <p>2 学習過程・具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け、主に上段に学習の流れ、下段に学習の見通しや具体例などを、図表を多用して提示している。</li> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の前または後に「活動を考える」を配置し、教材で学習することとの関連を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間5単元。各単元は各領域を関連させたものと『言葉の特徴やきまりに関する事項』『漢字に関する事項』で構成している。</li> <li>古典教材は、全学年、第4単元に配列している。</li> </ul> <p>2 分量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」「伝統的な言語文化」「言葉の特徴やきまり・漢字」の3年間合計ページ数が5発行者中で最も多い。</li> </ul> <p>3 発展的な学習の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」の学習で、第一教材・第二教材に続いて選択教材を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「古典に親しむために」として、全学年とも歴史的仮名遣い・文法・古語等の資料を掲載している。</li> <li>文法に関しては、解説と併せて脚注に演習問題を掲載している。</li> </ul> <p>2 本文と図表等との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材14ページ掲載されている。図表等の種類が2種類と少ない。(数10)</li> </ul>	<p>2 書籍紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読書2」の後の「読書案内」。</li> <li>筆者紹介の脚注の「読書に広げるために」。</li> <li>書籍紹介数 99冊</li> </ul> <p>3 「書くこと」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年2回で、物語や詩、エッセイ、意見文やブックカバーを書く活動がある。</li> </ul> <p>4 言語活動充実の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の「読むこと」の作品の内容からつなげて、表現活動に係るコラム「活動を考える」を設定し、「話す・聞く」「書く」活動への準備としている。</li> </ul>
<p>15 三省堂</p>	<p>1 目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の扉に単元の目標を単元名として示している。</li> </ul> <p>2 新出漢字の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脚注に行数と本文中の読みを示している。</li> <li>教材末にページ数、音訓、用例を示している。</li> <li>巻末に「〇年生で学ぶ漢字字典」として、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。</li> <li>巻末に「〇年生で学ぶ音訓」として、ページ数、新出音訓を示している。</li> </ul> <p>3 言語・文法の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語は「ことば発見」として単元の中で1～3ページにまとめている。文法は「文法のまど」として単元の中で1ページに</li> </ul>	<p>1 興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「目的や相手に応じて、情報を編集する」では、学校の様々な行事を案内するリーフレットを書く活動を取り上げている。</li> <li>「合意を形成し、課題を解決する」では、グループでまとめた企画案を、クラスや学年の企画会議で検討する活動を取り上げている。</li> </ul> <p>2 学習過程・具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページの脚注部分を広く取り、学習の流れやポイントなどを提示している。</li> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」の具体例や学習活動の説明に、イラストや図表を多用している。</li> </ul>	<p>1 構成、配列</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文と「資料編」の2部構成である。</li> <li>1・2学年7単元、3学年6単元。各単元は各領域を関連させたものと『言葉の特徴やきまりに関する事項』『漢字に関する事項』で構成している。</li> <li>古典教材は、全学年、第3単元に配列している。</li> </ul> <p>2 分量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」の3年間合計ページ数が5発行者中で最も多い。</li> </ul> <p>3 発展的な学習の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> </ul>	<p>1 巻末資料の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読書の広場」「考える広場」「参考資料」として全学年に示している。</li> <li>「学ぶ力を高めよう」では、学びを深めるための手法を「さまざまな思考方法を使う」「メモを活用する」等の7つに分け、学年に応じて示している。</li> <li>文法に関しては、各解説の後に演習問題を掲載している。</li> </ul> <p>2 本文と図表等との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、3教材17ページ掲載されている。図表等の数は少ない。(数8)</li> </ul>	<p>1 読書単元の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元「読書」を設定して1作品を掲載し、1・2学年は関連して「読書郵便」などの読書活動を示している。資料編に「読書の広場」として古典作品を掲載している。</li> </ul> <p>2 書籍紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の手引き中の「私の本棚」。</li> <li>「資料編」の「小さな図書館」。</li> <li>書籍紹介数 289冊</li> </ul> <p>3 「書くこと」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年は5回、2学年は4回、3学年は3回設定し、レポート、行事案内リーフレット、地域情報誌、小論文などを書く活動がある。</li> </ul> <p>4 言語活動充実の手立て</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめている。</li> <li>巻末に、詳しい文法解説を示している。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>資料編に「学ぶ力を高めよう」として、思考や調査、表現の方法について図を使って解説している。</li> </ul>
17 教出	<ol style="list-style-type: none"> <li>目標の示し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の扉に単元名と単元の目標を示している。</li> </ul> </li> <li>新出漢字 <ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字が出た行の真下の脚注に漢字のみを示し、本文中にルビがふつてある。</li> <li>教材末にページ数、音訓、用例を示している。</li> <li>巻末に「〇年で学習した漢字」として、ページ数、音訓、部首、画数、筆順、用例を示している。</li> <li>巻末に「〇年で読みを学習した漢字・語」として、ページ数、新出音訓を示している。</li> </ul> </li> <li>言語・文法の扱い <ul style="list-style-type: none"> <li>言語は「言葉の小窓」、文法は「文法の小窓」として、単元の中に1ページ程度でまとめている。</li> <li>巻末の「言葉と文法」に、詳しい言語解説と文法解説を示している。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>興味・関心 <ul style="list-style-type: none"> <li>「行事などの案内文を書く」では、町内会宛てに合唱発表会の案内状を書く活動を取り上げている。</li> <li>「課題を解決するために話し合う」では、議論の方向を捉えて発言し、発言の共通点や相違点を整理しながら互いの考えを生かし合い、提言をまとめる活動を取り上げている。</li> </ul> </li> <li>学習過程・具体例 <ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学びの重点」を設定し、各教材で身につけさせる学習内容を提示している。</li> <li>「話すこと・聞くこと」「書くこと」の話し合い例や文章例の下部に「活動のポイント」を示している。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>構成、配列 <ul style="list-style-type: none"> <li>本文と「資料編」の2部構成である。</li> <li>1・2学年8単元、3学年7単元。各単元は各領域を関連させたものと『言葉の特徴やきまりに関する事項』『漢字に関する事項』で構成している。</li> <li>古典教材は、全学年、第5単元に配列し、単元末に読むことを含んでいる。</li> </ul> </li> <li>分量 <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」の3年間合計ページ数が5発行者中で2番目に多い。</li> </ul> </li> <li>発展的な学習の示し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>「資料編」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>巻末資料の示し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉と文法（解説編）」「漢字」「言葉の自習室」として全学年に示している。</li> <li>「学びのチャレンジ」では本文で学習したことを振り返り、さらに学習を進めるための課題を示している。</li> <li>文法に関しては、解説の後に演習問題を掲載しているが、演習問題の量は少ない。</li> </ul> </li> <li>本文と図表等との関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は、4教材21ページ掲載されている。図表等の数は最も多い。(数23)</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>読書単元の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元「読書への招待」2回を設定して2作品を掲載し、学習の手引きにポップづくりなどの読書活動を示している。巻末の「言葉の自習室」に、1・2学年は5作品、3学年は6作品を掲載している。</li> </ul> </li> <li>書籍紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の手引き中の「読んでみよう」「本の世界へ」。</li> <li>資料編の「各学年のための読書案内」。</li> <li>書籍紹介数 260冊</li> </ul> </li> <li>「書くこと」の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年5回設定し、図表を用いた報告や四コマ漫画から意見文を書く、広告を批評するなどの活動がある。</li> </ul> </li> <li>言語活動充実の手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉の自習室」で、アイデアの出し方、インタビューの仕方などを説明している。</li> </ul> </li> </ol>
38 光村	<ol style="list-style-type: none"> <li>目標の示し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の扉に単元名と単元の目標を示している。</li> </ul> </li> <li>新出漢字の示し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>脚注に行数と本文中の読みを示している。</li> <li>教材末にページ数、音訓、用例を示している。</li> <li>巻末に「〇年生で学習した漢字」として、ページ数、音訓、部首、画数、</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>興味・関心 <ul style="list-style-type: none"> <li>「調べたことを報告しよう」では、言葉について調べてみたい課題を日常生活の中から探し、調査してわかったことをレポートにまとめて報告する活動を取り上げている。</li> <li>「話し合って提案をまとめよう」では、課題に対してグループで具体的な提</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>構成、配列 <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3学年は、本文と「文法」「漢字に親しもう」「学習を広げる」の4部構成、1学年は「言葉に出会うために」を加えた5部構成である。</li> <li>年間7単元。各単元は「読むこと」に絞ったものが各学年1単元、それ以外は複数領域を関連させた</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>巻末資料の示し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>「文法」「漢字に親しもう」「学習を広げる」として全学年に示している。</li> <li>「漢字に親しもう」では、小学校6学年で学んだ漢字（書き）の練習を問題形式で示している。また、巻末資料の折込は、文章を読むための基本的な学習用語をまとめている。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>読書単元の設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」を設定して2作品を掲載し、読んだ本の紹介などの読書活動を示している。1学年の資料編に読書感想文の書き方に係る教材を掲載している。</li> </ul> </li> <li>書籍紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>読書単元末の「本の世界</li> </ul> </li> </ol>

	<p>筆順, 用例を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に「〇年生で学習した音訓」として, ページ数, 新出音訓, 用例を示している。</li> </ul> <p>3 言語・文法の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語は「言葉」, 文法は「文法への扉」として, 単元の中や単元末に1～3ページ程度でまとめている。</li> <li>・巻末に, 詳しい文法解説を示している。</li> </ul>	<p>案を考え, 全体会議で結論をまとめる活動を取り上げている。</p> <p>2 学習過程・具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」を扱うページを上下2段に分け, 上段に学習の流れ, 下段に具体例などを提示している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動は, 4つのステップで構成され, テーマを決めたり立場や根拠を考えたりする手順を示している。</li> </ul>	<p>単元である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典教材は, 全学年, 第5単元に配列している。</li> </ul> <p>2 分量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴やきまり・漢字」の3年間合計ページ数が5発行者中で2番目に多い。</li> </ul> <p>3 発展的な学習の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習を広げる」に読み比べたり読み広げたりできる教材を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法に関しては, 解説と併せて脚注に演習問題を掲載している。</li> </ul> <p>2 本文と図表等との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年説明的な文章において文章と図表との関連について考えさせる教材は, 4教材23ページと最も多く掲載されている。図表等の種類が5種類と多い。(数19)</li> </ul>	<p>を広げよう」。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者紹介の脚注の「広がる読書」。</li> <li>・書籍紹介数 243冊</li> </ul> <p>3 「書くこと」の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2学年は5回, 3学年は3回設定し, 新入生へのメッセージを書く, 職業ガイドを作る, 修学旅行記を編集するなどの活動がある。また, 書く内容を整理する方法や推敲などを, 「練習」として各学年3回設定している。</li> </ul> <p>4 言語活動充実の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料編で, 表現活動のテーマ例や情報の収集方法などの解説がある。</li> </ul>
--	--	--	--	---	---